

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
編集
なかま編集委員会
〒285-0025
佐倉市鎚木町 198-3
電話 (043) 485-1801

「市民の黒子」を实践しよう----- 斎藤 雄 感じるままに 思いつくままに----- 柴田 伸一
雑感—閑中忙あり ----- 福島 健司 ほたるいか----- 阪井 二郎

タイタニックよ！ お前、まだ生きていたのか

田中 修司

これは就航当時、世界最大の英国豪華客船「タイタニック号」の実話である。

北アイルランドのベルファストで建造され、1912年4月10日音楽隊の華やかな演奏と大群衆に見送られる中、英南部のサウサンプトンを出航。シエルブル、アイルランド・コープに立ち寄った後、17日にニューヨークに到着の予定であった。

ところが、カナダの沖、北大西洋の公海上で氷山に衝突し、15日未明に沈没。富豪ばかりの乗船客2224人の内1500人以上が死亡した。最近、伊国の豪華客船座礁事故が報じられたが、タイタニックは処女航海の僅か6日目にして未曾有の大惨事に遭遇してしまっ

た。あれから今年で100年目。あの事故も、もう忘れられたも

のと思いきや、今年の4月に誕生の地ベルファストで総工費130億円をかけた博物館がオープンし、造船所や本体同様の客室と1000人を収容出来る宴会場も備えている。また会館の裏手には進水式の跡地もある。

また「タイタニック地区」と名付けられた周辺にはホテルやオフィスビル、大学等が次々と新設され、観光客を呼び込む起爆剤としての効果に期待がかかる。さらに「タイタニックゆかりの都市」のライバルも多く、初出航したサウサンプトンでも博物館が、また寄港地の仏シエルブルや沈没現場に近いカナダのハリファクスでも特別展が計画され、さらに同船の実際の航路を辿るクルーズ船まで登場

したり、潜水艇で深さ3750の沈没現場まで行くツアーも出だ。料金は497万円とのことだ。

タイタニックは1985年に発見され、船体の一部や積荷など約5500点が回収されている。フアーストクラス最後の昼食メニューは今年4月に英国で競売に掛けられ、約1000万円で落札されたそう。これは、米国の著名な銀行家の妻のバックの中から発見されたものだ。

さらに、最近豪州の資産家がこのタイタニックに模した同規模の「タイタニック2号」の建造を発表した。全長270m、全高53m、客室は16840室は「1号」と同規模で、2016年に完成予定である。

15年前にL・ディカプリオ主演で映画化、さらに今年4月3D化され再公開等々「タイタニック」は、永遠に生き続けて行くのではなからうか。

(編集委員)

「市民の黒子」を 実践しよう

子供の頃からの習慣で、他人のために尽すことが当り前の生活が身につき、私は復数のボランティア活動に関わりを持っていく。新緑が眩しい季節となった時期に用事が重なり、その一つの某公園管理事務所に三日間足を運ばなかった。

四日目に顔を出したら床の埃が目立ち、テーブルや椅子も汚れていた。そこは一般市民に展示資料を供覧し、休憩出来るようにセットされている。

会員として名を連ねても、おのおの人各の事情で普段は中々姿を見せず、私他Aさんと管理棟から近い所にいる二、三人の会員を除いては、定められた集会日に出席してスケジュールに従った活動に参加しているのみである。

ボランティアだからそれだけで充分、という考えで悪く

はないが、対照的にAさんは「どうせ暇だから」とせっせと足を運び、室内の清掃の他建物の前の花畑の手入れを率先して行っている。私も少しでも時間をつくっては花の種苗、それにプランターを持ち込み、出入口前で手入れをしながら訪問客の応対をしている。

シニア世代の特に男性の皆さん、ご家庭では布団干しや庭掃除ぐらいはやっておられると思うが如何。忙しいとか暇がないではなく、関わりのある会やグループの関連施設とその周辺だけでも、少なくとも一週間に一度、例えば十分でも「毎日が美化運動」の気持ちで、市民の黒子を実践して頂くことを勧めたい。人間は生活する上で周りを自然と汚す生き物であり、それを修復して人々に「和」なごみの心を与えられるように。

(石川 斎藤 雄)

感じるままに 思いつくままに

2012年2月18日、夜半から降り始めた雪が積もりました。豪雪でご苦労されている人たちが心配です。長い間のご無沙汰をお許し下さい。

ご無沙汰している間に東日本大震災が発生しました。佐倉も大変な揺れでした。すぐに家族の無事を確認し、仲間たちと無事を確認しあいました。地域の仲間のありがたさを感じました。

大震災からそろそろ一年になります。震災のことをあなたに書こうと思うと、テレビで繰り返し映し出された津波の様子や身寄りの方を亡くされた人たちが、家などすべての財産を流された方々へ思いを馳せると、心が哀しみと涙で一杯になります。書くことができなりました。私自身が何もできなかったことへの無力感があつたからかもしれま

せん。なんとか力を振り絞りあなたにお便りをしました。

テレビや新聞で被災地の方々が取材されたとき必ず、「私たちのことを忘れないでほしい」とおっしゃいます。この言葉は大変重い言葉だと私は思います。被災者の方々を忘れないということは、私たちの心にも被災された人たちの心に寄り添っているということだと私は考えています。復興の進捗を妨げている大きな要因の一つとして瓦礫の処理が進まないことが挙げられます。佐倉市が被災地の瓦礫処理を受入れると決めたなら、反対する側には立たないことが、私にとって「忘れない」ということではないか。小さな「忘れない」を積み重ね大きな力にしたいものです。そして被災された人たちの心に寄り添い続けていきたいものです。

(稲荷台 柴田 伸一)

雑感——閑中忙あり

平成24年2月2日は、私にとって記念すべき日だった。日本百観音巡りの結願の日だったからだ。日本百観音とは西国33カ所、秩父34カ所、そして坂東33カ所を指す。

実は現役引退間際に、12日間かけて四国88カ所巡りを終えていた。その際経験し、感じた事が忘れられず、性懲りもなく百観音巡りを思い立ち実行に移した。西国は10日間、秩父は3日間で結願したが、坂東は1年がかりだった。退職してサンデー毎日とはいえ、忙しくなりまとまった日程がとれず、何時でも行けるという思いからそうなっってしまった。全行程は、四国を含めると約四千五百キロだった。

私は熱心な仏教信者ではないが、歴史のある寺を巡り、その歴史を学び下手な般若心経を詠じていると、その時だ

けは心静かに自分を見つめ直す事が出来た気がしてならない。寺を辞去すると、すぐに俗世間の良からぬ事を考えてしまうのだが。結願寺である館山市の那古寺では、納経帳に当住自らが墨書と朱印をし、暫く歓談する事が出来、良き思い出となった。

昨年両親の七回忌を郷里で勤めた折、当住に「自分は〇〇についてこう考えるが？」等々質問すると「良く勉強していますね」と褒められ（多分に世辞もあつたろうが）更に、「今後この経を学んでは？」と薦められもした。勿論、今もって学んではないないが…。

四国88カ所を打ち納めると高野山に、百観音巡りを結願すると善光寺と北向観音に赴くそうだが、いずれ時間を作って相方を誘って温泉と般若湯を求めて、尋ねようと思っている。正に閑中忙有りの日々である。

（藤治台 福島 健司）

ほたるいか

十年程前の話である。ほたるいかの漁期は四月中旬から五月末まで、網を揚げる作業は真夜中から明け方に行われる。

北陸、魚津港で見学船が出るとの事で私たちは午前二時富山市を出る。三時前、魚津港着。やがて網揚げ作業の漁船が数隻出航し、三十分遅れで見学船が出る。真つ暗な海を二十分走り漁場に着くと、網揚げしていた漁船が一斉に消灯する。絞られてきた網にたもが入ると海の中にぱつと燐光色の光りが走る。素晴らしい紫色、宝石のサファイアの色だ。たもの入る度に光りが走り「うおー」と喚声が起こる。

作業が終わる前、最後のサ―ビスで見学船のデッキにたも一杯のほたるいかが投げ込まれる。甲板にぱつと拡がる紫の宝石、その中に手を入れ

ると数匹のほたるいかが吸い付く。後ろで「食べれるかなー」の声。私は手の甲に着いたのをがぶりと口でかじり取る。隣にいた子供が言う。「ああ、おじさんの口の中が光っている」。

港に帰ってから美味しかったかと聞かれたが、夢中で味は解らなかつた。唯、口の中でぐしゃりとした感覚と、口の周りに吸い付いた、いかの足を筆り取った時のピリピリした痛さが残っていた。

「ほたるいかは生で食べないで下さい。寄生虫がいる事が有りますから…」そんな注意書きが事務所の壁に貼られていたが私には後の祭り。それより「いかの怨念」が付いていないか私はそつと胃袋の辺りを覗いてみたが別に異常が無かつた。

（王子台 阪井 二郎）



9月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いただいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正や語句の訂正をさせていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043-485-1801

〒285-0025 佐倉市鍋木町198-3

お詫びと訂正

平成24年8月号のさくら道の内容に誤りがありました。

×老にして学べば→○老いて学べば ×老境の城→○老境の域 謹んでお詫びいたします。

さくら道

昭和37年5月4日。私の自動車運転免許証の取得日です。種類の欄に「大自二」とありますが、二輪車はただの一度も乗った事がありません。5年間有効のゴールド免許です。

50年間事故にも遭わずに厳しい交通事情の中、よく無事に過ごしてきたものです。特に北国での生活は、凍結した路面や雪道の運転には危険も多く、今では本当に運が良かったと神様に感謝しています。数年前から、車を持たない

生活になり、運転免許証は身分証明証となりました。旅行の際のレンタカー利用も家族の猛反対にあり、潮時を考えて運転を止める事を決断、免許証の返還を済ませました。

身分証は市役所で簡単に500円で発行してくれます。鉄道、バスを利用、足を使って動くこと、間違いなく健康にプラスとなるでしょう。

（大蔵 康次）

あとがき

自らのボランティア活動を通して、「市民の黒子」に徹して欲しいと訴える斎藤さん。見習いたいものです。昨年の震災で被災された方へ、「小さな忘れないを積み上げて大きな力にする」と誓う柴田さん。大いに共感します。福島さんの百観音巡り達成には驚きです。「結願」の言葉が光りますね。漁師が目前で釣り揚げたイカをそのままがぶりつい

たという豪快な阪井さん。「いかの怨念」は、本当になかったのでしょうか。

来し方も行く末もそれぞれ違って当たり前の私達。今回も4人4様の思いや体験を率直に綴っていただきました。おかげさまで、示唆に富む楽しい紙面となりました。皆さまの投稿をお待ちしております。

（松山 洋子）